

泌尿器科後期研修プログラム

I 概要と目標

泌尿器科専門医の資格（泌尿器科教育施設での4年間以上の研修が必要。当院は基幹教育施設に該当）を取得するための基礎となるべく、泌尿器科全般にわたる幅広い研修を行う。すなわち、泌尿器科的疾患における的確な診断、治療方針の決定が一人で行えること、および主要な手術における術者・助手をつとめることができることを目標とする。

II 研修指導医

大枝忠史（泌尿器科診療部長，日本泌尿器科学会専門医，指導医）

別宮謙介（泌尿器科医長，日本泌尿器科学会専門医，指導医）

III 研修および指導方法

- 1) 1年次：指導医とともに入院患者を受け持ち、マンツーマンでベッドサイド中心の研修を行う。

（診療、検査、処置）

- ① 泌尿器科的疾患の診断と治療計画の立案を指導医の下で行う。
- ② 病棟・外来で行う全ての泌尿器科的処置を指導医の下で習得する。
- ③ 尿路に関連するX線検査の読影（排泄性尿路造影、逆行性尿路造影、CT、MRIなど）を指導医の下で学ぶ。
- ④ 泌尿器科的内視鏡検査・処置（膀胱尿道鏡、尿管鏡、逆行性尿管造影、尿管ステント留置術、尿流動態検査など）を指導医の下で行う。
- ⑤ 泌尿器科的手術の術前・術後管理を指導医の下で行う。

（手術手技）

- ① 経尿道的内視鏡手術および開放小手術を指導医の下で施行する。
- ② 主要な開放手術・腹腔鏡下手術の助手として手術に参加する。

- 2) 2-3年次：単独で入院患者を受け持ち、外来を担当し、自らの責任で診療を遂行する。

（診療、検査、処置）

- ① 一般的な泌尿器科的疾患の診療を単独で行う。
- ② 責任を持って患者・家族に病状や治療内容の説明を行う。

（手術手技）

- ① 経尿道的手術・開放小手術を単独で行う。
- ② 主要な手術を指導医の下で執刀する。

- 3) 全体を通して

- ① 他科のカンファレンス・院内カンファレンス等に積極的に参加し、泌尿器科以外の知識の習得にも努め、他科との連携を深める。
- ② 学会・研究会等に積極的に参加し投稿する。